

阿佐谷南三丁目共同墓地・朝倉崇家所蔵板碑



- 〔登録年月日〕平成二年三月三十一日
〔種別〕有形文化財（古文書）
〔名称〕阿佐谷南三丁目共同墓地・朝倉崇家所蔵板碑
〔点数〕二基
〔所有者等〕個人
〔所在地等〕阿佐谷南三三五（共同墓地）

阿佐谷南三丁目共同墓地・朝倉崇家所蔵板碑

上半部から下半部にかけて左側面を欠損している長さ四五cm、幅二〇cmの板碑は、種子・蓮座下の中央に一花瓶を配し、その左右に延文二年（一三五七）一月の造立年代を記す、いわゆる一花瓶様式のものである。

区内におけるこの様式の板碑分布は、阿佐谷地域をも通る伝鎌倉街道に沿って集中しており、年代的には延文・貞治期（一三五六〜六八）のものが多く、そのほとんどが粗製品である。

この板碑もその一つで、造りは粗製である。造立年代は表面の風化が著しく、なかなか読みがたい。ここでは一応延文二年と判読したが、延文元年との読みかたも捨てがたい。

長さ三〇cm、幅二二cmで下半部を欠失した板碑は、上部のみの遺存のため造立年代等の銘文は一切不明である。しかし、わずかに残された部分の二条線や梵字などにみられる様式上の考察から、本板碑は阿佐谷北の法仙庵境内にある正和・文保年代（一一三二〜一九）のものと同じ様式のもので、おそらく鎌倉時代末期の製作と推察される。正確な造立年代は不明ながら、この板碑は阿佐谷地域に残存する板碑の中では、古い様式に属するものの一つといえる。

【文化財所在地】

